

アルミ原料市場 全国で供給過多

非鉄金属

全国で緊急事態宣言が解除され、いよいよ生産活動が本格回復に向け動き出す。市中ではどの程度、生産を挽回するのか関心が高まる。しかし、2カ月以上にわたる世界的な景気減速が国内のアルミ原料市場に与えたインパクトは大きく、需要の回復遅れが鮮明となっている。製造業の中には、来月も生産調整を継続するところもあるようだ。その影響で、原料ユーザーであるアルミニウム二次合金メーカーとアルミ原料問屋間の売買が成立しない、ノミナル商況が発生するなど、全国で供給過多の状態が続く。東名阪のアルミ原料市場の現状と展望をレポートする。

関東地区

発生低調も在庫増

関東地区の需給は、自動車産業の生産調整に伴う合金メーカーなどの需要の大幅な減少によって依然として緩みが生じている。発生はコロナ禍の影響から工場・解体由来とも低調であるものの「ベースは遅いが在庫は増えていく」

（原料問屋筋）と、それ以上の買い手不足に悩まされている。

需要減は原料価格にも影響を与えている。自動車メーカー

コロナショック



市中相場の急落を周知する直納問屋

の生産調整が進んだ4月はみ切った以降、アルミニウム二次合金より、6月の生産は当初計キロ当たり約15〜18円引き下金メーカーの生産も急減。合同比6割程度にとどまる。ひがった。5月には合金メーカーの金筋の中には、当初計画の半以下では、目先も原料需要は現一の買い止めも散見。「売れ分程度にまで減産を余儀なく行比で大きく変わることはないものは買えない」（同）とされているところもあり、依さずだ。先行きの見通しはと安値寄りでの仕入れが市中然生産回復のめどが立っていない、とする向きでは見られた。

6月以降のスクラップ需給を速め、荷受けを抑制する合「自動車関連メーカーは7月も不透明感が強いとの見方が金メーカーもある。「あえてには、生産を計画比8割にま

緊急事態解除も需要回復遅れ鮮明

大勢を占める。「6月はメーカー買値を提示せず、荷受けをしで戻すようだ」（アルミダイカスターの需要を見ながら必要でない合金メーカーも見られ「（原料問屋筋）。合金筋ものを入れる形になるだろう」（同）という。また、自は、地金ユーザーのアルミ自動車生産が再開してもスクラップが本格的に必要になるまではタイムラグがあるとみられていたことも、原料需給の「秋までに戻れば」（同）緩和に追い打ちをかけている。中部地区ではアルミ新地

中部地区

夏以降に復調か

トヨタ自動車を始め自動車関連メーカーが生産調整に踏



出荷を待つアルミ原料

市中相場急落、一部で高いノミナル化

関西地区

6月も状況変わらず、価格横ばい

コロナ禍で国内の自動車販売は大幅に落ち込んでいる。4月の国内自動車販売は前年同月比で25・5%減だった。これに伴いアルミスクラップは価格が下落し、需要も低調だ。一部メーカーは4月にアルミ原料の買い止めを行った。ノミナル化の状態とも言える。

「市況は下げ一辺倒でもない。例えば中国では自動車通動の見直しで自動車が売れている。このため中国産アルミニウム価格は、反発している。これには米産ミックスメタルの輸入が止まったことも影響している」（橋本健一郎 本アルミ取締役）。

二次合金メーカーの5月のアルミ原料購入価格は前半と後半を合わせてキロ10円引き下げられた。6月もコロナ禍が商売の制約要因となる見通し。5月と状況は変わらず、価格も5月比の横ばいだらう」（同）という。

かれ、復調の兆しがわずかながら見えている。

かったことが影響し、%増)だった。全量輸 製鋼用その他が16万5
3%減の3993万355(同比5・5%減)。
た。自動車メーカーが生産調整に踏 地区ダイカスターメーカーに 出荷を待つアルミ原料